

令和4年度 後期学校関係者評価書

南アルプス市立南湖小学校

後期学校関係者評価委員会【書面開催】

1 実施日 令和5年1月17日（火） 書面提案

2 評価者 学校関係者評価委員
望月 光長
箭内 潤一
小田切 雅裕
野田 正貴
望月 秀幸
学校職員
川手 昌英（校長）
齊藤 千代美（教頭）

3 学校から提案された内容（書面）

- ①教職員・保護者・児童のアンケートの前期と後期の結果の比較（教頭）
- ②後期学校評価の分析と考察（教頭）
- ③前回の学校関係者評価におけるアドバイスを受けての取組と成果（教頭）

4 分析の結果、今後さらに改善していきたい2点に対する「ご意見・アドバイス」など

①分かりやすい・楽しい授業への取組について

- ・児童、保護者を100%が目標ですが、コロナ禍でいろいろなことが変わり、変わろうとしている今、十分な結果ではないでしょうか。
- ・後期になり、授業が難しくなり、結果「⑥授業が嫌」＝「⑩学校が楽しくない」の傾向はあるのではないのでしょうか。児童が興味をもつような授業にするのは大変ですが、板書だけでなく、道具類を使用したり、グループでの活動などにより、誰でも参加できるような授業を行ってみてはどうでしょうか。
- ・先生方が厳しく自らの指導を振り返るためには、他者の評価が必要だと思います。管理職はもちろん、同僚、指導主事、時には児童、保護者の声も素直に聴く中で、課題を見出し、改善策を考えることではないのでしょうか。本質的には、一人一人の子どもに分かる感動、学ぶ楽しさをどう演出していくか・・・様々な知見に学ぶことも大切です。
- ・GIGA スクール、英語教育と授業科目が増えていることや、新型コロナウイルスの影響によって、前期に比べて後期は授業の進み方についていけない子どもがいるのではないのでしょうか。
- ・児童が思っているのと教職員の思っていることの差が気になりました。

②「相談・支援体制」、「児童理解」、「いじめのない楽しい学級づくり」について

- ・昨年の全国のいじめ件数が過去最多だった。いじめは大きな問題となることがあるので、教職員、保護者、地域が一体となって取り組むことが必要ではないのでしょうか。
- ・いくらアンテナを高くして情報をキャッチしているつもりでも、目の行き届かない部分は出てきてしまいます。精度を上げるためには、複数の目でチェックしていくことが必要だし、子どもの様々な面を多角的に捉えることができるのではないのでしょうか。当然そのような取組はしていると思いますが、万が一学級王国的なことや、学級担任を孤立させることがあつ

てはなりません。

- ・相談・支援の設問に対して、特に下がっている。夏休みを過ごし、子ども達にとって生活が違ってしまふ。また、長引く新型コロナによる多くの制限により、ストレスがたまってきて、大人が感じている以上に影響されているのではないのでしょうか。内面のことについては理解するのに費用に難しいとは思いますが、日頃の言動や行動に注意を払う以外にないと思います。
- ・普通ではないのでしょうか。

③その他の感想・御意見

- ・大変良い資料だと思います。以前のように多くのアンケートを見せられても、理解できない項目もあったが、今回のように要問題を提示されたことにより、深く考えることができた。
- ・教頭先生からいただいた資料、前期・後期の比較が大変分かりやすいものでよかったです。
- ・教科の増などにより過半数の先生が仕事に負担を感じている。先生が壊れてしまわないか、心配です。コロナは子どもだけでなく、先生方にも影響しています。学校で少しでも行動制限を緩くすることはできないのでしょうか。
- ・教職員の皆様ももう少し自信を持ってよいかと思いました。

令和4年度 後期学校評価委員会は、書面提案をもって、開催にかえます。いただいた御意見・アドバイスにつきましては、ほぼ原文のまま載せさせていただきました。貴重な御意見、ありがとうございました。これらの御意見をもとに今後も学校として、教職員一丸となり、分かりやすい・楽しい授業づくりに取り組み、また、児童理解と、児童や保護者の相談支援をさらに充実できるよう努め、いじめのない楽しい学校づくりに取り組んでいきたいと思ひます。

令和5年1月

評価書作成責任者

事務局 学校職員

齊藤 千代美